

不二精機株式会社
2016年12月期決算説明資料
証券コード6400



2017年4月7日HP公開

www.fujiseiki.com

2016年12月期の決算の説明と今後の展望などをご説明いたします。

2016/12月期決算の概要

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

1

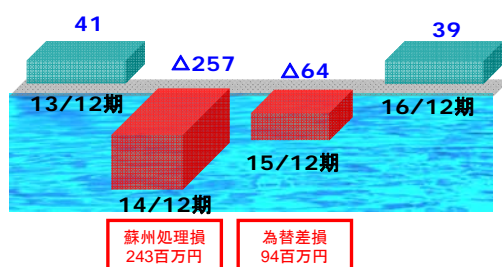
2016年12月期の決算の概要についてご説明いたします。

16/12月期決算の概要(連結) PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

(百万円)	15/12月期	16/12月期	増減額	増減率(%)
売上高	5,539	5,108	△431	△7.8
営業利益	189	211	22	11.6
経常利益	△53	55	108	—
当期純利益(*)	△64	39	103	—

※「親会社株主に帰属する当期純損失(△)又は親会社株主に帰属する当期純利益」を簡略化して記載しております。

◇当期利益の推移



・成形品事業で自動車部品を中心に1億43百万円増収も、金型事業で中国での一時的な減少および、円高による円算換算額の3億93百万円減により減収

・インドネシアの営業黒字達成で営業利益増益、為替差損・支払利息減により経常利益・当期利益とも黒字転換

2

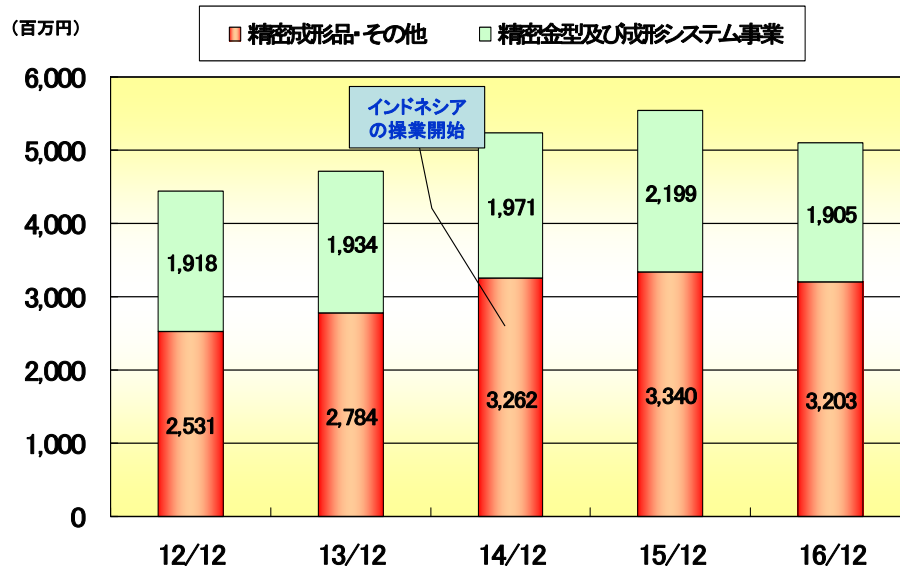
当社グループの2016年度の連結売上高は、精密成形品事業で自動車部品を中心にタイ、インドネシア市場で順調に拡大し、前期比1億43百万円増加しました。精密金型事業では中国市場で発生した医療機器関連製品の一时的な減少の影響で、前期比1億82百万円の減少となりました。また、期中に発生した円高(中国元、タイバーツ、インドネシアルピア)により円換算額が、前期比3億93百万円減少しましたので円換算の売上高としては、前期比4億31百万円減の51億8百万円となりました。

営業利益は、精密成形品事業でインドネシア子会社の黒字転換もあり、前期比22百万円増の2億11百万円となりました。

経常利益は、為替差損・支払利息の減少があり、前期比1億9百万円増の55百万円となりました。

当期純利益は、経常利益の増加などにより、前期比1億3百万円増の39百万円となりました。

セグメント別売上高の推移(連結) PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



3

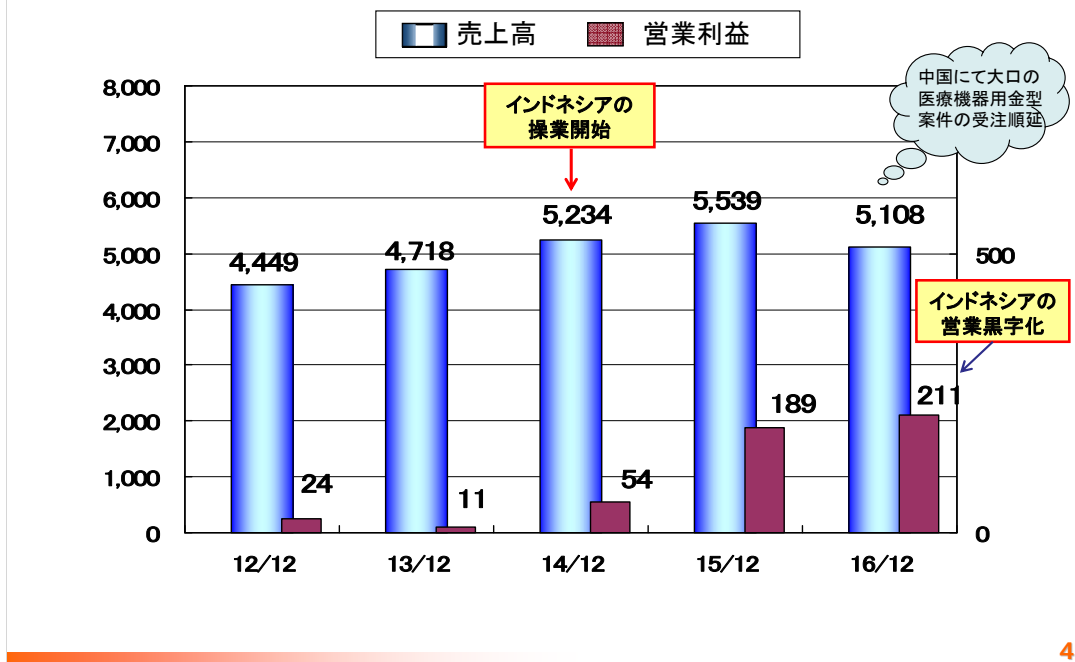
<射出成形用精密金型及び成形システム事業>

2016年12月期は、中国市場での医療機器用の一時的な減少および、円高による円換算額の減少1億13百万円があり、2億94百万円減(前期比13.4%減)の19億5百万円となりました。

<精密成形品その他事業>

2016年12月期は、インドネシア、タイ、上海各子会社で自動車部品用成形品が増加しましたが、円高による円換算額の減少2億80百万円があり、1億37百万円減(前期比4.1%減)の32億3百万円となりました。

売上高と営業利益の推移(連結) PRODUCT MOTHER FUJI SEKI



2016年12月期の売上高は、金型事業で中国市場での医療機器用の一時的な減少があり、成形品事業でインドネシア、タイ、上海各子会社で自動車部品が順調に増加しましたが、円高による円換算額の減少3億93百万円の影響により、前期比4億31百万円減(7.8%減)の51億8百万円となりました。

営業利益は、操業開始3年を経過したインドネシア子会社が営業黒字化したことなどにより、前期比22百万円増(11.8%増)の2億11百万円となりました。

B/Sの主な増減科目(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

(百万円)	15/12月期		16/12月期		増減額	主な要因
		構成比		構成比		
流動資産	2,967	49.9	2,403	46.3	△564	
現金・預金	684	11.5	475	9.2	△209	手元資金圧縮
受手・売掛金	1,228	20.6	1,097	21.1	△131	受取手形減少
棚卸資産	687	11.6	582	11.2	△105	製品・仕掛品減少
固定資産	2,898	48.7	2,732	52.6	△166	
資産合計	5,951	100.0	5,193	100.0	△758	
流動負債	3,346	56.2	2,759	53.1	△587	短期借入金減少
支払手形・買掛金	771	13.0	627	12.1	△144	買掛金減少
固定負債	1,490	25.0	1,556	30.0	66	長期借入金増加
負債合計	4,837	81.3	4,315	83.1	△522	
純資産合計	1,113	18.7	877	16.9	△236	自己株式の取得
負債・純資産合計	5,951	100.0	5,193	100.0	△758	

自己資本比率 16.9%

前期比1.8ポイントダウン

総資産は、前年度末に比べ7億58百万円(12.7%)減少し、51億93百万円となりました。

流動資産は、売掛債権(受取手形・売掛金)、棚卸資産の圧縮に努めたことなどにより、前年度末に比べ5億63百万円(19.0%)減少しました。

固定資産は、有形固定資産の償却が進んだことおよびリース資産が減少し、前年度末に比べ1億65百万円(5.7%)減少しました。

負債合計は、短期借入金・社債の返済を4億12百万円実施したことなどにより、前年度末に比べ5億21百万円(10.8%)減少し、43億15百万円となりました。

純資産は、利益剰余金が39百万円増加した一方、自己株式を1億3百万円取得したことおよび、円高により為替換算調整勘定が1億72百万円減少したことなどにより、前年度末に比べ2億36百万円(21.2%)減少して8億77百万円となりました。以上の結果、自己資本比率は、前年度末に比べ1.8ポイント減少して16.9%となりました。

キャッシュフローの状況(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

(百万円)	15/12月期	16/12月期	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	241	551	310
投資活動によるキャッシュフロー	▲111	▲307	▲196
財務活動によるキャッシュフロー	▲248	▲423	▲175
現金及び現金同等物の期末残高	684	475	▲209

キャッシュフロー要約

営業活動

営業利益の増加、棚卸資産の圧縮などにより資金を確保しております。

投資活動

インドネシア・タイでの成形設備などへの投資を継続しております。

財務活動

借入金・社債の返済を計画的に実行しております。

また、自己株式の取得を実施しております。

6

営業活動では、税金等調整前当期純利益20百万円のほか、減価償却費2億88百万円の実施、売掛債権・棚卸資産の圧縮などにより5億51百万円を確保しました。

投資活動では、タイ、上海およびインドネシアでの自動車関連成形品の新規受注に対応する増産のため成形機・金型などを中心とした投資資金の支払を実施しております。

財務活動では、借入金および社債の返済を計画通り進めたほか、自己株式の取得などを実施しております。

基本事業戦略

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

7

基本事業戦略についてご説明いたします。

◆基本戦略

将来にわたる収益確保のため

「金型技術」をベースに「成形事業」を

第二の収益の柱とする

当社グループは、将来的に市場規模の縮小が想定される「金型事業」から、当社の金型技術を生かした付加価値の高い成形品に特化した「成形事業」を、第二の収益の柱とすることを目指しております。

なぜ成形事業なのか

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

精密成形品製造プラント(タイ)



超精密金型製造技術と、
的確な対応・海外展開力が強み



ココが強み

金型メーカーだから実現可能

メンテナンスへの対応

金型メーカーだから 素早い対応が可能

プラスチック成形品の製造

金型メーカーだから 歩留まりが高く、効率化が可能

立上げから量産化まで

金型メーカーだから 時間短縮、効率化を支援可能

成形生産周辺設備の設置

金型メーカーだから 周辺設備も最適化できる

成形システムの最適化

金型メーカーだから 最適化を熟知している

超精密金型の製造

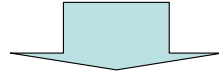
金型メーカーだから イニシアティブを取れる

9

第二の収益の柱とする精密成形品事業に関する、当社グループの強みを記載しております。

◆連結利益目標達成への課題

- ①国内金型市場の縮小への対応
(顧客の海外生産シフト)
- ②成形品事業の受注変動リスク低減
(安定稼働を目指した製品への集中)



年間平均稼働率を高める

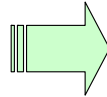
連結利益目標の達成に向けての課題は、製造業の海外生産シフトが進む日本の金型市場への対応および、安定した稼働が利益に直結する成形品事業での受注変動リスクの低減であると考えております。

◆課題への対処

- ①医療・食品分野への集中(金型事業)
(顧客ニーズへの対応により新規受注獲得)
- ②営業活動の重点シフト(成形品事業)
(海外の自動車関連部品の拡大へ集中)



稼働率安定



利益目標達成!

金型事業においては、医療用品関連分野・食品容器関連分野への集中し、新規受注の獲得に注力いたします。

また、成形品事業の稼働率安定に向け、受注の波が比較的少ない自動車関連部品(2輪・4輪)分野への集中を進め、年間の稼働率の安定により目標とする連結利益の達成を目指します。

2017/12月期事業計画

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

12

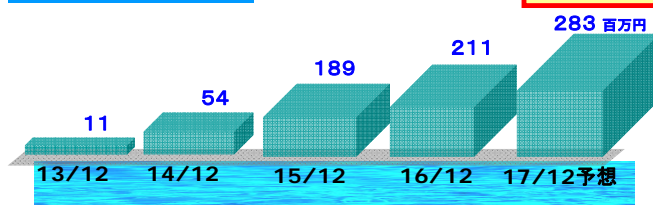
2017年12月期の事業計画をご説明いたします。

17/12月期通期計画(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

(百万円)	16/12月期実績	17/12月期計画	増減額	増減率%
売上高	5,108	5,391	283	5.5
売上総利益	1,114	1,139	25	2.2
販管費	903	856	▲47	▲5.2
営業利益	211	283	72	34.1
経常利益	55	165	110	200.0
当期純利益	39	166	127	325.6
設備投資	291	260	▲31	▲10.7
減価償却費	288	315	27	9.4

営業利益の推移



営業利益率
目標 5.2%

<営業利益計画のポイント>

◆インドネシア営業利益拡大

◆コスト構造の改革

①内製化 → 外注費削減

②自動化 → 人件費抑制

営業利益計画達成へ

13

2017年12月期は、引き続き当社グループ全体で各事業の選択と集中をさらに進め、成形品事業では、自動車関連製品へのシフトによる収益の拡大、および日本でのディスクケース製品のシェア拡大による安定収益の確保、ならびに東南アジアでの受注拡大に伴う増産体制の整備を進めてまいります。

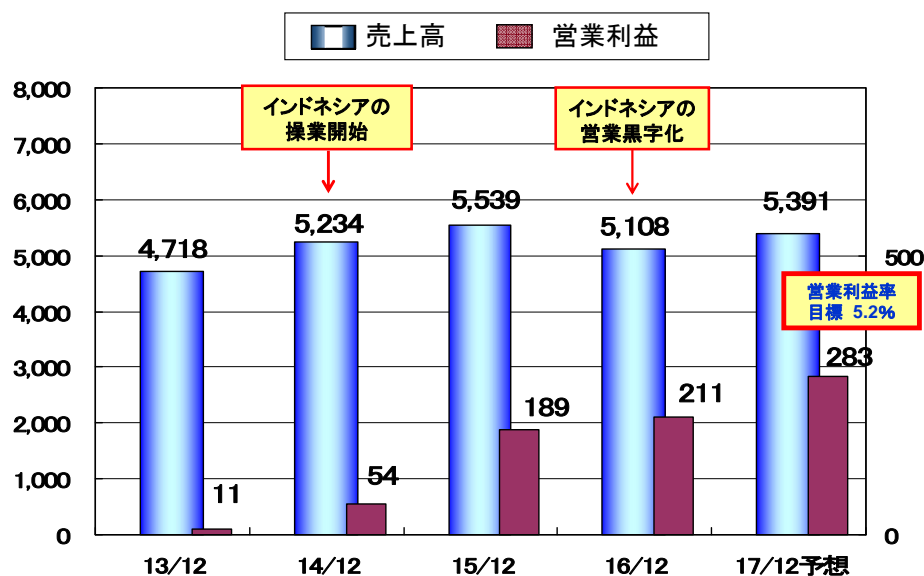
金型事業では、日本市場で医療関連製品・食品容器関連製品、中国市場で常州不二精機において医療関連製品に集中した営業活動、およびグループ内で連携した固定費圧縮・内製化の推進などの生産性向上活動を実施し、安定収益の確保を目指します。

以上の方針により、2017年12月期の売上高は、アジアにおける自動車部品の成形品の受注拡大および金型事業における受注の更なる選択と集中を進めることなどにより、前期比2億83百万円の増収を計画しております。

営業利益は、金型事業においては稼働率の安定化を図るための営業活動への注力、成形品事業においては自動車部品用成形品の安定的な受注拡大および、自動化/半自動化による人件費抑制を中心としたコスト構造の改革を確実に実施することにより、前期比72百万円増の2億83百万円を計画しております。

債権債務の評価による為替差損益は想定せず、経常利益1億65百万円、親会社株主に帰属する当期純利益1億66百万円を計画しております。

売上高と営業利益の推移(連結) PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



14

2016年12月期の売上高は、金型事業で中国市場での医療機器用の一時的な減少があり、成形品事業でインドネシア、タイ、上海各子会社で自動車部品が順調に増加しましたが、円高による円換算額の減少3億93百万円の影響により、前期比4億31百万円減(7.8%減)の51億8百万円となりました。

営業利益は、操業開始3年を経過したインドネシア子会社が営業黒字化したことなどにより、前期比22百万円増(11.8%増)の2億11百万円となりました。

事業戦略

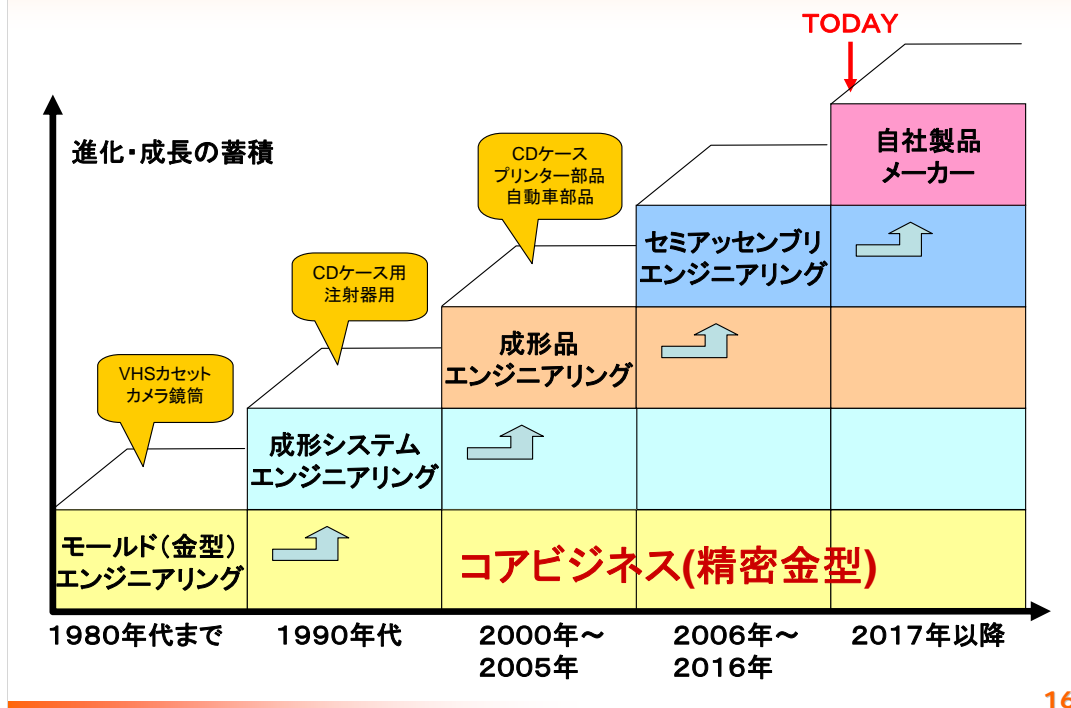
PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

15

中期事業戦略についてご説明いたします。

不二精機の歩み

PRODUCT MOTHER FUJI SEKI



1955年の創業以来、「精密小物向け金型では、他社に負けない」を合言葉に、着々と顧客のご支援を頂きながら成長してまいりました。

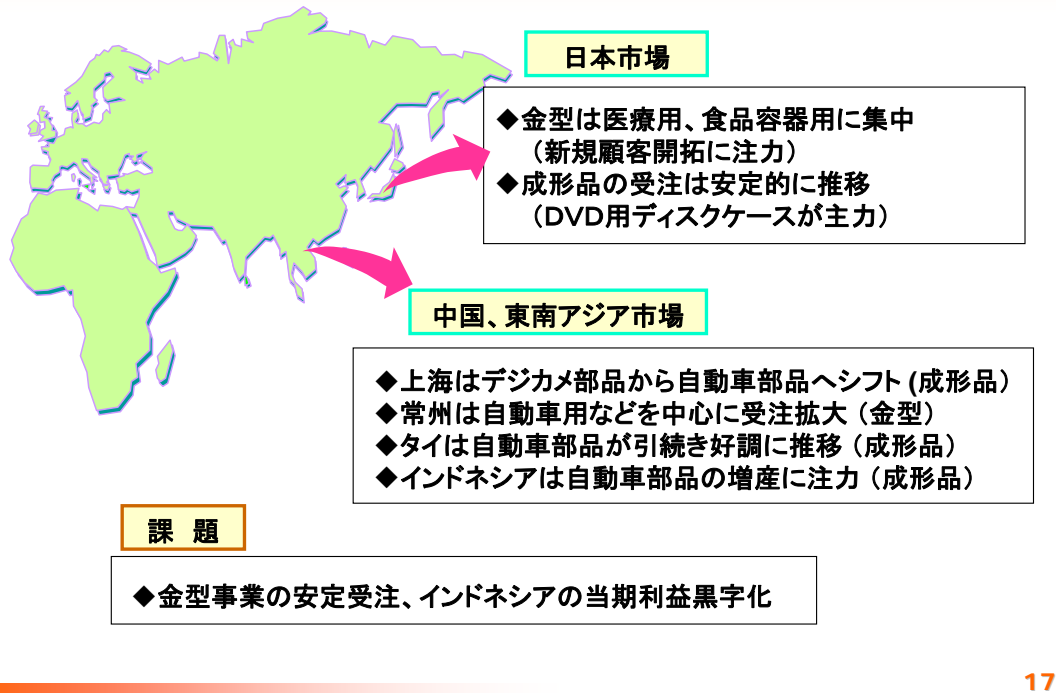
1984年頃には、金型から生み出される成形品そのものの精密さが必要とされる商品向けの精密金型に加え、成形品1個当たりのコストが重視される大量生産品向けの金型にも当社の精密金型を必要とされることから、大量生産品向けマーケットへ進出しました。

1990年代より、単に金型単体での販売だけでなく、顧客が求める成形品を生産するために必要な生産設備(成形機、取出し機、自動組立機等)も併せての販売を開始しております。

2000年からは精密金型をコアとし、タイ、中国にある当社海外グループ会社等において成形品製造・販売を主体としたビジネスを展開しております。

2006年以降は、成形品の販売のみならず、成形品への印刷・塗装およびセミアッセンブリにも事業を拡大しております。

2017年以降には、当社の強みである精密金型技術を活かした自社製品メーカーを目指します。



現状の市場別環境認識とグループ各社の方針および課題を記載しております。

海外市場拠点

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

上海



設立：01/09
稼働開始：02/03

■光学機器用、2輪・4輪車用などの精密成形品の製造を担当

THAI



設立：01/01
稼働開始：02/03

■2輪・4輪車用などの精密成形品の製造を担当

常州



設立：02/11
稼働開始：03/10

■医療用、2輪・4輪車用(主にグループ向け)などの精密金型の製造を担当

INDONESIA



設立：12/10
稼働開始：13/10

■2輪・4輪車用の精密成形品の製造を担当

18

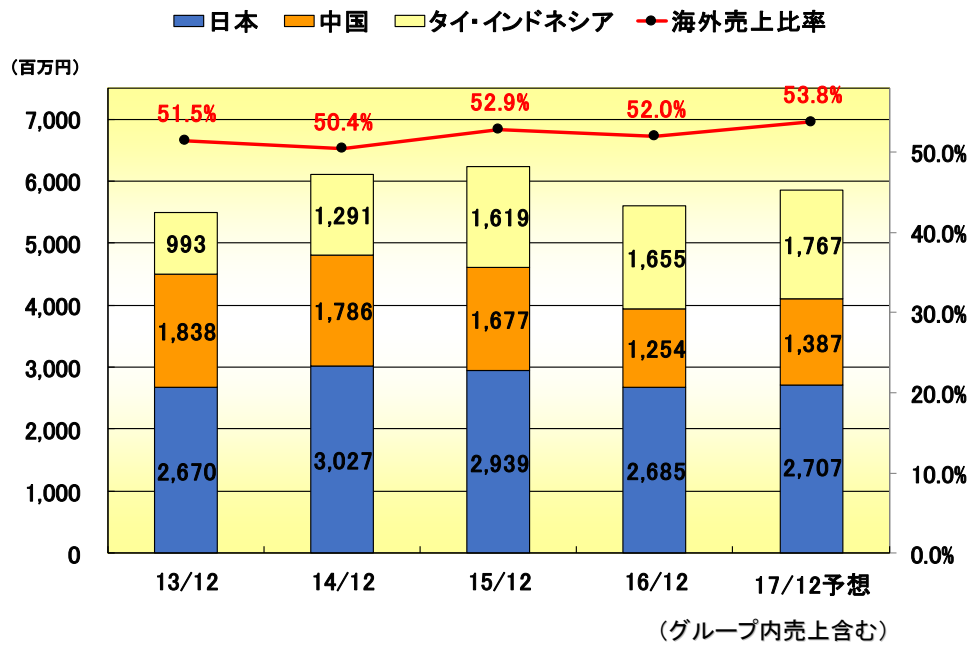
【海外市場の拠点】

2001年より海外展開を進め、中国/常州に精密金型製造会社のほか、中国/上海、タイ、インドネシアに3拠点の成形品製造会社を稼働させております。

アジアでの自動車生産拠点の集中化に対応し、2012年10月に設立した不二精機インドネシアは、2013年10月より二輪・四輪部品用成形品の生産を開始し、順調に増産を続け、2016年度に営業利益の黒字化を達成しております。

地域別売上高推移(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

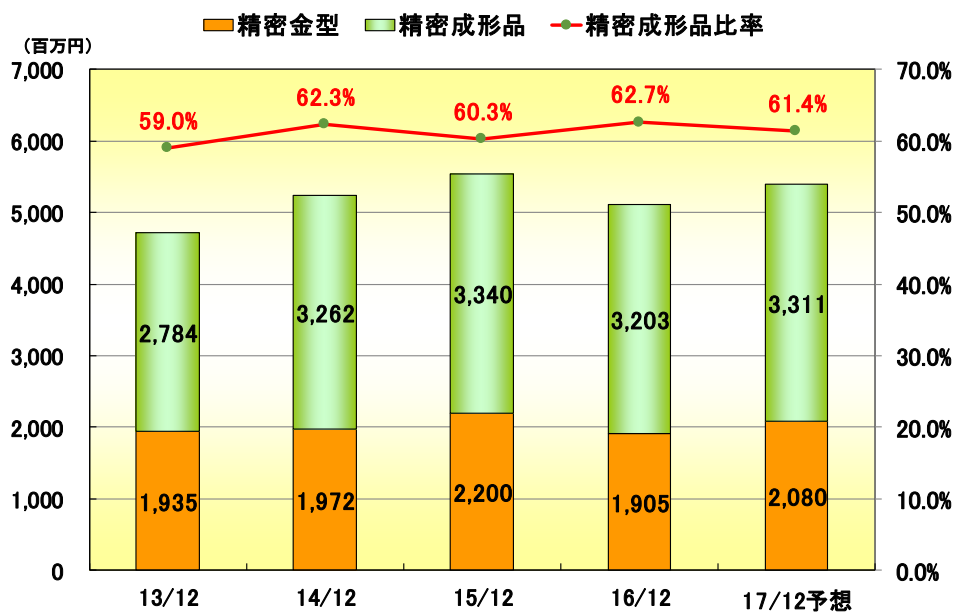


19

海外売上高の比率は、50%を超えて推移しております。中期的に売上高は、自動車関連の精密成形品を中心に海外市場での拡大を目指しております。

セグメント別売上高推移(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

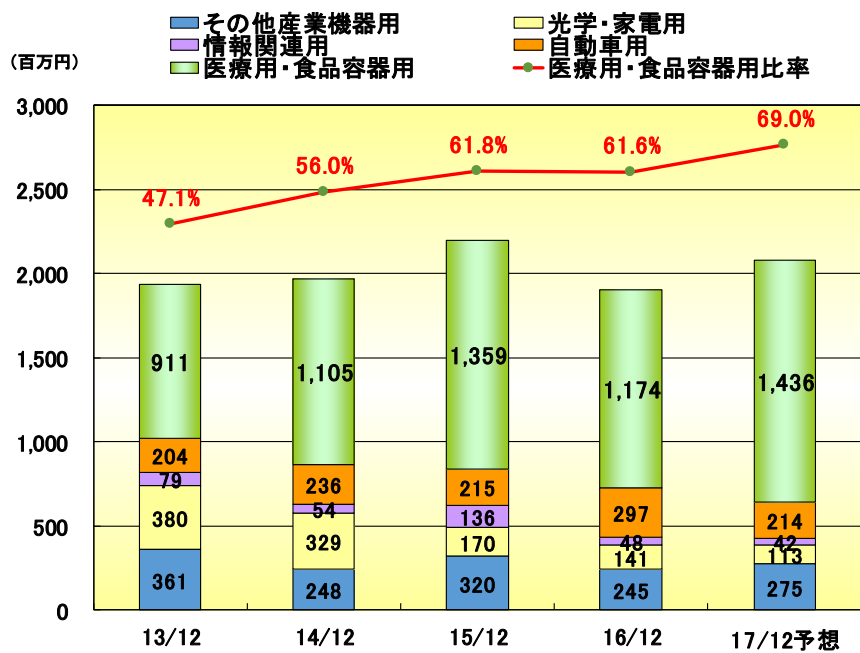


20

精密成形品の売上高比率は、60%を超えて推移しております。中期的に、精密金型セグメントでは医療用品関連分野・食品容器関連分野を中心に付加価値の高い受注に集中し安定的な推移を目指しながら、精密成形品セグメントで自動車関連部品を中心に着実な拡大を目指しております。

精密金型/分野別売上高推移(連結)

DUCT MOTHER FUJI SEKI

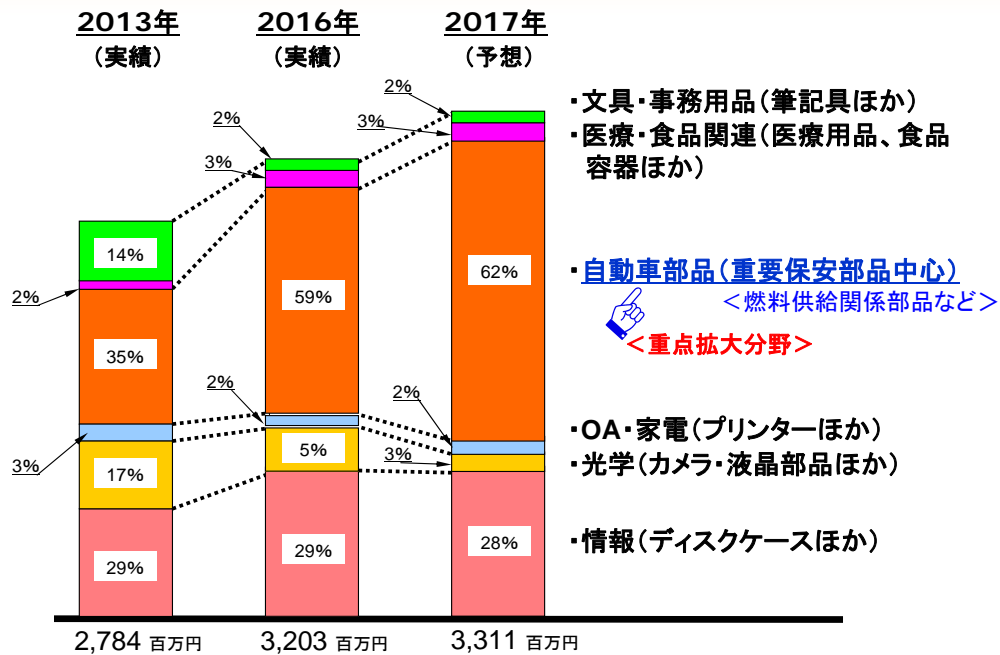


21

精密金型の売上は、日本の金型市場の縮小を想定し、医療用品関連分野・食品容器関連分野へのさらなる集中を進めております。

精密成形品/分野別売上高推移(連結)

MOTHER FUJI SEKI



22

精密成形品売上の中で、市場が縮小方向にあるデジタルカメラほかの光学分野は減少を計画し、国内市場でのディスクケース製品は新製品効果などにより横ばいを計画しております。

受注の波が少ない自動車部品分野の拡大に集中し、利益率向上の課題である年間平均稼働率を高めることにより、利益率の改善および利益額の確保を目指します。

当事業の拡大には、当社グループの強みである高生産性金型技術および品質管理の整備された成形品量産体制を戦略的に活用いたします。

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



お問合せ先

管理本部
TEL:06-4306-6822

23

ありがとうございました。